

斑尾高原沼の原湿原において実施した鳥類標識調査の結果について

NPO 法人新潟ワイルドライフリサーチ代表 長野康之
 〒949-2112 新潟県妙高市関川 783-1
 TEL: 080-6623-0292

今年も昨年・一昨年と同様に、環境省版レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている希少な渡り鳥であるノジコを主な対象とした鳥類標識調査を下記の通り実施しました。

○日時：令和7年10月2（木）～10月20日（月）：10/6、13、19（雨天）を除く16日間

○時間：日の出から正午まで

○場所：沼の原湿原（地図参照）



○結果：捕獲数

コガラ：2羽、シジュウカラ：5羽、ビンズイ：1羽、ウグイス：39羽、メボソムシクイ上種：3羽（コムシクイ、オオムシクイ、メボソムシクイは識別が難しいためにこうした記載をします）、メジロ：15羽、ノゴマ：8羽、アトリ：2羽、ムギマキ：1羽、ホオジロ：4羽、カシラダカ：17羽、ノジコ：330羽、アオジ：19羽、クロジ：2羽の合計：448羽が捕獲できました。

○足環付き個体の再捕獲例

今回捕獲された330羽のノジコのうち、5羽が足環付きの個体でした。これらの個体はいずれも昨年・一昨年の10月に沼の原湿原にて足環を装着されて放鳥された個体です。

再捕獲日	足環番号	齢	性別	年齢	初放鳥日
2025/10/02	2AS-57167	2024年生まれ	メス	1歳	2024/10/15
2025/10/03	2AR-96593	2022年生まれ	オス	2歳	2023/10/14
2025/10/10	2AM-64942	2022年以前生まれ	メス	3歳以上	2023/10/05
2025/10/14	2AR-96653	2023年生まれ	メス	2歳	2023/10/17
2025/10/14	2AS-57162	2023年以前生まれ	メス	2歳以上	2024/10/15

今年再捕獲された個体は放鳥された後、越冬地とされるフィリピンで冬を越した後、沼の原湿原よりも北のエリアで繁殖を試み、越冬地へ渡る途中で再び沼の原湿原にやって来たものです。

今年（2025年）の秋の渡り時の捕獲数は長岡市と加茂市ではそれぞれ78羽と144羽、国内最大の渡りの中継地とされる福井県敦賀市では79羽であったのに対し、沼の原湿原では330羽の個体が捕獲され、1か所の捕獲数としては現在日本一です。改めて沼の原湿原が希少な渡り鳥であるノジコの渡りの中継地として重要な場所であることがより明確になってきました。他の調査地が軒並み捕獲数を減らしているのに対して、標高がおよそ800mと高い沼の原湿原は低地よりも猛暑の影響を受けにくいのかもしれません。また、ノジコの繁殖地としても利用されていますので、日本でしか繁殖が知られていないノジコにとって、沼の原湿原は非常に重要な場所であると言えます。

○湿原の管理について

3年連続して実施した調査から、沼の原湿原はノジコの渡りの中継地として非常に重要であることがわかつてきました。これまでにお伝えしてきましたが、毎年ある程度の面積のヨシ原を残していただくことが、ノジコの渡りの中継地を残すことにもつながると思います。

簡単ではありますが、今年の調査の報告とさせていただきます。

<希少な渡り鳥ノジコについて>



標準和名：ノジコ（野路子：渡りの時期に草原（野路）でよく見られることに由来しています）

学名：Emberiza sulphurata

英名：Yellow Bunting

世界的に希少な渡り鳥

例えばツバメは日本やヨーロッパ、北アメリカなど世界各国で繁殖する渡り鳥です。また、ライチョウも北極を取り囲むノルウェー、スウェーデン、アイスランド、カナダ、アメリカといった国々に広く生息しています。しかし、ノジコの繁殖地は世界中で日本の本州中部以北（北海道を除く）だけに限られています。さらに、本州であればどこでも良いというわけではなく、新潟県には多く生息しますが、東北地方や日本海側を中心とした主に標高1,000m以下の雪深い地域に点々と繁殖地があるだけです。そのため、世界的にも希少な鳥として、環境省のレッドリストにも準絶滅危惧種として記載されています。